

令和5年度

第2回神奈川県公立高等学校設置者会議

会 議 録

- 1 日 時 令和5年9月6日(水)
13時40分～14時20分

- 2 場 所 神奈川県庁本庁舎大会議場

- 3 出席委員 黒岩 祐治、工藤 誠一、田沼 光明、柏木 照正
竹内 博之、飯島 奈津子、高木 まさき、新倉 聡
川名 勝義、花田 忠雄、落合 嘉朗、増田 年克
石川 隆一(横浜市教育委員会事務局学校教育企画部長)
小澤 毅夫(川崎市教育委員会事務局学校教育部長)

福祉子どもみらい局長（座長）

ただいまより、令和5年度第2回神奈川県公立高等学校設置者会議を開会いたします。

私は、この6月に神奈川県福祉子どもみらい局長を拝命しました川名でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

こちらの会議でございますが、令和3年度、令和4年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、オンライン併用という形で開催してきたところでございます。

今回の第2回の設置者会議につきましては、令和2年度までと同様に、対面での開催とさせていただきます。

皆様方には、御協力いただきまして大変ありがとうございます。

なお、第1回の会議は書面開催でしたので、このような形で皆様にお集まりいただくのは今年度初めてとなります。

開会に当たりまして、「神奈川県公立高等学校設置者会議の設置及び運営に関する要綱」に基づいて、座長の互選をお願いしたいと思います。

従来から神奈川県において私立学校を所管する局長が座長を務めさせていただいておりますので、慣例に従い、大変僭越ではございますが、今回も、福祉子どもみらい局長である私が務めさせていただくということで、よろしいでしょうか。

全員

（異議なし）

座長

ありがとうございます。

それでは、これより座長を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、この会議は原則公開とされておりまして、取材及び傍聴者につきましては、こちらの会議室にすでに入室していただいております。御承知おきください。

議事に入ります前に、今年度、委員の交代がありましたので、新委員の御紹介をいたします。

神奈川県私立中学高等学校協会理事 柏木照正委員でございます。

神奈川県教育委員会教育局長 落合嘉朗委員でございます。

神奈川県教育委員会教育局指導部長 増田年克委員でございます。

なお、本日は、横浜市教育委員会教育長 鯉淵委員の代理として、横浜市教育委員会事務局学校教育企画部長 石川隆一様に御出席いただいております。

また、川崎市教育委員会教育長 小田嶋委員の代理として、川崎市教育委員会事務局学校教育部長 小澤毅夫様に御出席いただいております。

会議に入ります前に、本会議の主宰者である黒岩知事でございますが、別の公務によりまして、途中からの出席とさせていただきますので御了承願います。

また、「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」様から、本会議の主宰者あてに要請文書が提出されています。

皆様には文書の写しを送付していますので、御確認をお願いいたします。

それでは議事に入りますが、知事の出席の都合上、次第の順番を入れ替えまして、まず、2の報告事項から始めさせていただきます、その次に、1の議題の順で進めさせていただきますと思います。

なお終了は、14時15分頃を予定しています。

それでは、2の報告事項「公私協調事業 神奈川の高校展 2023」について、事務局から説明をお願いします。

事務局（私学振興課長）

<資料4により説明>

座長

ありがとうございます。この「神奈川の高校展」ですが、平成18年度から開始ということで、現在では、中学生が高校を選ぶ際の本当に大切な事業として定着してきたところかと考えております。

私も一部参加させていただきましたが、中学生と保護者の方が本当に熱心に各ブースを回って、各高校の特徴ですとか工夫を確認しながら、学校選びをしている、大事な事業というふうに見させていただいたところでございます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、全公立展は中止ということでしたが、今年度は、全公立展、全私学展及び公私合同説明・相談会、全てのイベントが中止もなく実施することができたという報告を受けております。

これもひとえに学校関係者の皆様の、大変な御協力、御尽力によるものであったと思います。

今回も、感染症の対策等、御苦労が多かったかと思っております。

この神奈川の高校展につきまして、ぜひ、学校現場において留意した点、また工夫した点等の御発言をお願いしたいと考えております。

恐れ入りますが、順番をお願いしたいと思います。まず、県教育委員会様の方からお願いいたします。

増田委員

はい。よろしく願いいたします。

全公立展4年ぶりの開催ということで、県立高校、市立高校が一堂に会して、中学生に学校の案内ができたということでございます。

在校生等も参加しておりますので、学校の雰囲気非常によく伝えることができたのではないかと考えております。

今まで、コロナ禍の中、いろいろ工夫をしながら学校の状況を発信してきたわけですが、改めて、この対面の効果というものを非常に強く感じる、そのような行事だったかというふうに思ったところでございます。

それから、公私合同説明・相談会でございますが、こちらは昨年度も実施をいたしました。実は事前申込制を昨年度、取らせていただいたのですが、受付の開始と同時に申込み枠がすぐに埋まってしまうということで、大分お叱りの御連絡もいただいたのが現状でございます。

そこで今年度は、申込み枠の時間帯をより細かく区切りまして、なるべく多くの方に御来場いただけるよう工夫をしたところ、そういった苦情の類が大幅に減りまして、各会場においても非常に多くの受験生の方にお越しいただけということでございます。事前申込みの時間の区切り方も工夫の余地があるなど感じたところでございました。

私も会場に伺ったのですけれども、本当に各ブース、ものすごい熱気ございまして、学校の場合、教室を使っていますので教室の外にも行列ができるような、そんな状況もございました。それ以外に大きなホール等では、壇上から発信をする、或いはビデオ等を流していると様々工夫をした取組の中で、中学生の皆さんに学校の魅力の発信、これは公立私立ともに非常に良い形でできたのではないかと考えたところでございます。

私の方からは以上でございます。ありがとうございました。

座長

ありがとうございます。

昨年度の状況も踏まえていろいろ工夫をされたという御報告いただきました。本当にありがとうございます。

続きまして、私学の委員から、竹内委員、よろしく願いいたします。

竹内委員

竹内です。よろしく願いいたします。

全私学展の方では、気付いたことがありまして、講演会を実施したのですが、中学3年生の保護者の方々が、神奈川県における高校入試のシステムをほとんど理解しておられないということを感じました。講演会は3回実施したのです

けれども、3回とも超満員でした。この辺り、公立の中学校の先生方に、もう少し頑張って説明して欲しいという思いは感じました。

そして公私合同説明・相談会の方ですけれども、前年度は、その前の何年か中止があった関係もありまして、経験のある先生方の異動もあり、引き継ぎがうまくいかずに少しギクシャクした部分があったのですが、今年度に関しては、その反省から準備期間に十分な話し合いを持てたので、かなり充実した内容の高校展が開催できたと思っています。参加した中学3年生や保護者の方からも、非常によかった、満足したという感想を、たくさんいただいております。

ただ、問題点として、公私合同説明・相談会の12会場での実施について、そのうちの1会場がなかなか会場と日程が決まらず、最終的には、8月16日のお盆の最終日に実施することになってしまったことは、少し反省しなければいけないかなと思います。

それから、4会場が同じ日に設定されていたことも、もう少し横の連携を取って、もう少しばらけるようにしたらいいなというふうに思いました。

以上でございます。

座長

ありがとうございます。

講演会が超満員で、高校入試のシステムを把握されていない方が多いということで、課題として、こちらも受けとめさせていただければと思います。

続きまして、横浜市様、よろしくお願いいたします。

横浜市 石川学校教育企画部長

よろしくお願いいたします。横浜市でございます。

今年度は全公立展と公私合同説明・相談会が開催されまして、中学校の3年生、本市の中学生も、たくさん参加させていただきました。

それから、保護者の皆様方には、本当に大切な機会を対面で実施できたことにつきまして、有意義だったと思っております。

そして、全公立展、実に4年ぶりの開催となったわけですけれども、学校の雰囲気等が伝わるよう、どの学校も、パネルや掲示物を工夫して作成していただいております。

公私合同説明・相談会では、それに加えまして、学校説明の動画を作成して、上映や説明をして魅力を伝えている高校が多くございました。

実際に、ホームページですとか、いろいろなことで、これまでも、この中でも、いろいろアピールをしていたところですが、こういうふうにリアルの場があることで、自分たちの学校のよさですとか、アピールポイントですとかって

いうことを自分たちが再確認する機会にもなったというふうに思っております。

特に、一部の学校は、先ほどのお話もありましたけれども、在校生も来ているところにつきましては、自分たちの学校について、もう一度考える機会にもなったということで、それはとてもよかったかなと思っております。

以上でございます。

座長

ありがとうございます。

続きまして、川崎市様、よろしく願いいたします。

川崎市 小澤学校教育部長

川崎市でございます。

川崎市教育委員会といたしましては、全公立展が4年ぶりの開催ということで、大変緊張感の伴う開催になったのかなと思っております。生徒及び保護者の方には、できるだけ安心して参加していただけるよう、各高等学校の校長先生には、十分な感染対策を行った上で、配布資料等を有効に活用して、的を絞った簡潔な説明と、丁寧な対応をしていただくようお願いをして、対応させていただいたところでございます。

公私合同説明・相談会につきましては、校長先生方に対しまして、感染対策に加え、熱中症対策に特に配慮していただくようにということでお願いをいたしました。

当日は、これまで抽選で決めていた各学校のブースを、昨年度の来場者数の実績をもとに配置をすることであるとか、人が多く集まる学校が、廊下の曲がり角の教室を使用することで混雑を防いだり、階段の上り用と下り用を分けたりであるとか、各学校の資料コーナーを別ルートに設けることで、学校のブースに行かなくても資料を入手できるようにしたりであるとか、そういった工夫を行って開催をさせていただきました。

結果といたしまして、気分がすぐれず救護室で休む来場者が3名ほどいたと報告を受けておりますけれども、熱中症であるとか、体調を崩し、大事に至るような参加者はなかったと思っております。

無事に終了できたのかなと考えているところでございます。

川崎市からは以上でございます。

座長

ありがとうございます。

今夏の熱中症対策は、皆様本当に御苦労されていることかと思えます。今回の

全公立展、全私学展、公私合同説明・相談会においても、今お伺いしたような工夫で事故を防がれていたということで、お聞かせいただきましてありがとうございます。

続きまして、横須賀市様、よろしくお願ひいたします。

新倉委員

横須賀市でございます。

全公立展につきましては、令和2年度以降、中止されていましてのが開催できて、本当にうれしく思っているところです。

公私合同説明・相談会につきましては、前年度に引き続き各地区で開催されたところですが、横須賀三浦地区としましては、8月4日、横須賀総合高等学校を会場として開催をさせていただきました。

今回も、時刻を区切って各回の入場者数に制限を設けることと、感染症対策は講じてきたところです。

今年は、今お話ありましたように非常に暑い中での開催でしたので、熱中症対策として、入場待ちの方の待機場所を、屋外で待たずとも済むように、校舎内に別に設けるような形をとらせていただきました。

参加された各学校は、自校の特徴を短時間で説明されていたり、或いはさらに個別の相談ブースを用意していたりと、それぞれ個性を発揮されていたかなと思います。

特に受験をされる参加者の方々は、多くの学校を回りたいという生徒と、個々にじっくり聞きたいという生徒で、それぞれのニーズが違っている部分があるかと思っていたのですが、これらについて、それぞれに対応できたというので、大変評判はよかったかなと思っています。

いずれにしても、全公立展も、公私合同説明・相談会についても、各高校の特色等を中学生、保護者の方に対面で知っていただけるという場面が、非常に有意義だったのかなと思っています。

横須賀での公私合同説明・相談会は、来場者数にしてみますと、この前から比べると若干数字が落ちてはおります。これは一方において、各高等学校等で学校説明会を頻繁に開いていただいているということがあって、保護者、生徒の皆さんはそちらを十分に見ているというお話を伺うことができしております。

特に横須賀市内の中学校については、生徒自身が主体的に自らの希望に沿った進路を選択できるようにという指導を重点的に行っているところがありますので、こういった神奈川の高校展、それから各学校でやられている学校説明会については、是非、参加をするようにと促しているところでもあるわけです。

中学校から確認いたしましたところでは、生徒が各校の情報を得る際には、各高等学校が作成している広報やホームページが重要な情報になっているという回答をいただいています。

特に本市は市立高校が1校ですけれども、その市立横須賀総合高等学校につきましても、ホームページの更新を行う形で、最新の情報を常に発信できるよう、今後、学校側のPRの場として、もっと努めていかなければいけないのかなと思っています。

私からは以上でございます。

座長

ありがとうございます。

ただいま皆様、それぞれのお立場からお話いただきましたが、やはり対面で行ったという効果は非常に大きいのかなというふうに、お伺いさせていただきました。

皆様今後とも、様々な工夫を施しながら、中学生の皆さんが自分の希望に合った学校を見つけられますように、今後も工夫していく必要があるかというふうに感じさせていただいたところでございます。

本日いただきました御意見につきまして、神奈川の高校展実行委員会の方に伝えていきたいと考えております。

報告事項につきましては、以上とさせていただきます。

続きまして、次第の「1 議題 令和6年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について」に移らせていただきます。

はじめに、神奈川県公立高等学校協議会における定員協議の結果につきまして、協議会の座長である私学振興課長より報告をお願いします。

事務局（私学振興課長）

<資料3により説明>

座長

ただいま議題の説明をさせていただきましたが、この冒頭から、黒岩知事も出席しているところでございます。

それでは、これより意見交換に移らせていただきます。

令和6年度の入学定員計画の策定につきまして、協議会の報告ございましたが、こちらにつきまして、御意見をお伺いしたいと考えております。

それでは、まず私立側からお願いいたします。

工藤委員

はい。

知事が就任した時から、公私それぞれが定員目標を持って、ということをお聞きいただき、この方式をとっております。

それまでは、単にどのくらいの比率でやるかという、方向性だけの決め方をしていたのですが、知事の見識によって定員目標という形になり、それぞれが目標を持って協議していくということになりました。これは、全国に先駆けた先進性のある取組であると、私どもは理解しております。

また同時に、昼間の進学率というものをどのように考えるかということを取り入れたことは、大変大きなことだと思っております。

首都圏ですと、広域通信制高校、特に進学を重点とする広域通信制高校が出てきておりますので、そこに通う生徒も含め、どのように捉えるかということは大きな課題になっております。昼間の進学率の考え方がそのことも加味するという形で前進したことは、非常に良いことだと思っております。この方式を今後もぜひ継続していきたいと思っております。

主に公私協の交渉の場にいましたのは、募集対策委員長の竹内先生です。竹内委員の方から一言説明、報告をさせていただきます。

竹内委員

再び、竹内からお話しさせていただきたいと思っております。

工藤理事長からもお話があったとおり、私学の定員策定における役割とは、学則で定められた収容定員を踏まえて安定的な学校運営に努め、県民のニーズに応えることです。

この学則で定められた収容定員という部分を私学側は重くとらえており、生徒が増えても減っても、私学の定員は大きくぶれないことが重要であるということをお聞きいただき、我々は原点に持っております。

先に事務局からの御説明で少しお話があったとおり、来年度の入試では、神奈川県の中3年生が約1,000名減ると言われています。

けれども、私学側としては、そうであったとしても、今年の定員目標は1万5,000人であり、この目標を今年もその前の年もクリアしているため、この数字は来年度、たとえ中3年生が1,000人減ったとしても、まずクリアできる数字だろうと考えました。

ただ、公立側との定員目標とのバランスもありますので、私学側としては、今年の1万5,000名の目標から50人減らした形で、1万4,950人というふうに設定したいと考えたわけですので、それで、一応了承を得ているところです。

工藤理事長の方からもお話がありましたとおり、やはり多様な進路選択から、

広域通信制の方へ流れていく。その傾向があるようではすけれども、やはり全日制でしっかり教育をして、この21世紀をたくましく生き抜く人間力をつけることが大切だと思っています。

今後公立も私立も協力し合いながら、全日制進学率を上げていくように、努力をしていきたいと思っています。

以上です。

座長

ありがとうございます。

続きまして、県教育委員会からお願いいたします。

花田委員

県教育委員会教育長の花田でございます。

今、公私協の結果報告をいただきまして、公私それぞれが実現を目指して目標設定する方式、これが継続されたこと、また、公立中学校卒業予定者数が1,000名程度減少するという中でも、しっかりと県全体の全日制進学実績の向上を目指すということが公私で合意されたこと、私としても全く異存ございません。

また、冒頭で説明がありましたが、新型コロナウイルスがまだなくなったわけではございませんので、感染症を警戒するに越したことはないわけではすけれども、感染状況によっては入学者選抜の実施にあたって必要な検討をしていくと、こういったリスクをしっかりと捉えているということで、公私協の結果を尊重させていただきたいと思ひます。

ただいま私学側からお話ありましたがすけれども、公立サイドとしてもしっかりと私学と連携をして、中学生たちがしっかりと自分の希望する全日制には入れるような形で、引き続き連携させていただきたいと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

座長

ありがとうございます。

続きまして、横浜市様、お願ひいたします。

横浜市 石川学校教育企画部長

横浜市でございます。よろしくお願ひいたします。

今年度の入学定員計画につきましては、十分な協議がなされたものであると思ひます。妥当であると私たちも思ひております。

今、再三お話ありましたがすけれども、県内の公立中学校卒業生数が減少し続ける

見込みで、またこれもお話ありましたが、広域通信制への進学率も増加している中で、目標設定は大変難しいところではございますけれども、これまでどおり公私が協調しながら、それぞれの立場と責任のもとに、全日制高校への進学率の更なる向上に向けて一層の努力をしていくことが重要であると考えております。

横浜市立高校につきましても、各学校の魅力、特色ある教育を充実させていって、最大限努力していきたいと思っております。

以上でございます。

座長

ありがとうございます。

続きまして、川崎市様、お願いいたします。

川崎市 小澤学校教育部長

川崎市でございます。

川崎市の公立中学校の卒業生予定者は、毎年度、増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいの状態でございます。市内の高等学校の募集定員策定に関しましては、市立、県立、私立それぞれのバランスを考えて、検討していく必要があるのかなと考えているところでございます。

一方、県内の公立中学校卒業生数は、今年度約1,000名の減少が見込まれており、来年度以降も長期的に見れば減少し続ける見込みなのかなと思っております。

また先ほど話が出ておりますけれども、広域通信制への進学率も増加するなど、生徒の進路選択が多様化している等の状況の中で、目標設定が難しいところではございますけれども、公私各々が自らの責任において、全日制進学率の向上を目指し、定員目標を設定してきたというところでございますので、今回の目標設定という部分につきましては、妥当であると考えているところでございます。

以上でございます。

座長

ありがとうございます。

続きまして、横須賀市様、お願いいたします。

新倉委員

横須賀市でございます。

今回1,000名近くの公立中学の卒業生が減っていくということを御報告いただきまして、改めて児童生徒の少子化というものに直面しているのだというこ

とを感じているところです。

横須賀は三浦半島の中核という形をとっていますけれども、今現在、令和5年度で8,590名程度の生徒数なのですが、6年後の推計をいたしますと7,600名、約990名の減となりまして、その低減率は11.5%にまでなるだろうと予想されています。

これから大きな少子化を迎えていく中で、全日制高校に対して、どのように子供たちを育てていくかというのは非常に大きな課題だというふうにとらえています。

そのような形を、単年度ごとではありますけれども、次年度を見越しながら、公私のバランスをよく、どのように作っていくかということが大変重要な課題だと思っておりますので、今回御討議いただきました内容につきましては、私は本当に妥当な数字かなというふうに思っているところです。

なおまだ三浦半島において、横須賀市立の高校を1校、横須賀総合高校を持っておりますけれども、総合学科がこれからどうあるべきかということも含めました上で、子供たちの進学ニーズにどうこたえていくかということを改めて検討しなければいけないというふうに思っております。

これに対する教育は是非充実させていくべきだとは思っていますので、その辺を務めさせていただければと思います。

私からは以上でございます。

座長

ありがとうございます。

続きまして、飯島委員から御発言いただければと思います。

お願いいたします。

飯島委員

神奈川県弁護士会の弁護士の飯島でございます。

これまでの議論の結果を拝見しておりまして、公立と私立のそれぞれの役割というものを見ながら、また時代の流れを見ながら、妥当な議論をされて、このようなことを御提案されているということに対して、賛同したいと思っております。

私としては、やはり今、多様性をすごく言われている中で、いろいろな特性を持った生徒さんがいて、全日制で学びたいという生徒さんもいれば、従来の教育のスキームからは少し外れるような特性を持った生徒さんもいて、その中でインクルーシブ教育に努力してくださっている学校があることと、現場の先生方の苦労もいろいろあるなということを感じております。

ただ、やはり全日制で学びたいと希望する生徒さんには是非、全日制で学んでいただきたいなと思います。全日制でなければ経験できないこと、学べないことというのはたくさんあると思います。

時代の流れで広域通信制教育というのも勿論承知しておりまして、それにも多くのメリットがあることも存じております。

しかし、やはり学校場に集まって、同年代の生徒と仲間になって交流して、その高校の年次年代を過ごすということが、どんなにかその人生において一人一人にかけがえのない機会になってくるかと考えますと、希望する生徒さんには是非進学していただきたいと願っております。

それぞれ多様な生徒さんを受け入れられるように、努力していただけるとありがたいなと思っております。

以上です。

座長

ありがとうございます。

続きまして、高木委員、お願いいたします。

高木委員

横浜国立大学の高木でございます。お世話になっております。

皆様方と同じことを繰り返すようではすけれども、公立、私立それぞれの役割を踏まえた上で、この少子化に向かっていく中で目標設定をきちっとされて、しかも公立と私立とが協調してという、そういう枠がきちっと機能して、事前に十分な御協議をいただいたということがよく分かりました。

来年、既に少子化の傾向が強まってくるようではすけれども、その中で、それぞれの役割を踏まえて引き続き、このような協議のもとに適切に運営していただければと思っております。

皆さん仰っておられましたけれども、広域通信制といった仕組みは、これからの時代、ある意味で非常に重要なものになると思いますけれども同時に、対面でお子さん同士が切磋琢磨したり、教師の方から言っても、実際に教室で子供に対応する中で自分自身が成長していくということを実感できる部分もあると思います。そういう意味で、バランスが必要なのだと思います。

これから様々な、大きな変化が起きてくると思いますが、それぞれ公私協調して、この方向で子供たちのために御尽力いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

座長

ありがとうございました。

ただいま皆様から御意見、御発言いただきましたが、皆様から今回の入学定員計画につきまして、賛同するという御意見いただいたかと思っております。

今後本日の議題につきまして、この会議として協議が成立したということによろしいでございましょうか。

全員

(異議なし)

座長

ありがとうございます。

なお、定員計画のうち、公立高校の定員につきましては、今後、教育委員会に諮って正式に決定することになりますので御承知おきをお願いいたします。

以上で議事を終了させていただきますが、知事から御発言いただけますでしょうか。どうぞよろしくお願いいたします。

黒岩知事

本日は大変お忙しい中、そしてお暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

神奈川県公私立高等学校設置者会議、熱心な議論が行われ、また合意に達したということで、大変ありがたいことだと思っているところであります。

公私が協調しながら、子供たちの目線に立って対応するというこの流れがしっくり定着したのだということは、本当に誇らしいことだと思っています。

来年度は少子化の流れが顕著に現れて、中学3年生がもう1,000人も減ってくるということで、いよいよそういう時代に入ってくるのかと改めて思う次第であります。そういう時代であればこそ、この定員の問題というのは、難しい問題になってくると思います。

そのような中で、公私協調ということで、しっかりとした合意ができた。そしてこの目標が実現されると、全日制進学率90%を超えるということも見込まれているということで、素晴らしい結論が出たということ、心から感謝申し上げたいと思います。

県では、全ての子どもが幸福で健やかに成長できる社会の実現を目指しております。そのためには、あくまでその子供たちの目線に立って、我々大人たちが対応していくということが非常に大事なことだと思います。

先ほど工藤委員の方からもお話がありました。この設置者会議のこのやり方

というものは、神奈川県が誇るべきものだということで、しっかりとこの伝統を引き継いで、子供たちにとって素晴らしい教育環境を皆さんとともに作っていきたいと思います。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

座長

ありがとうございました。

はい、工藤委員、何かありますでしょうか。

工藤委員

設置者会議ということで、神奈川県内の学校を設置するメンバーがお集まりになり、また、黒岩知事、花田教育長もいらっしゃいますので、要望をしたいと思います。

生徒募集と同様に、これからは教員の確保ということが難題になってまいります。

そのような中で、この4月から、文科省が、教員免許の発行について、特別免許状の授与の指針を大幅に緩和したということは、皆様もう既に御存知だと思います。

一括の採用試験がない私立学校は、この制度に取り組みやすく、大いに活用できるものと思っております。

しかし、教員免許を授与する各都県の審査会について、神奈川県の審査会では、1人も私学の委員が入っておりません。東京都の審査会には2名の私学の委員が入っております。埼玉県の審査会にも私学の委員が入っています。

是非、知事と教育長がおられますので、この特別教員免許状授与の審査会の中に、私学側の委員を入れていただきたい。

これを私は今日強く要望したいと思っております。

最後の発言であります、誠に申し訳ありません。

是非よろしく御検討ください。

座長

工藤委員ありがとうございました。

今の工藤委員の御発言、今後、検討するということでよろしいでしょうか。

それでは、以上を持ちまして本日の会議を閉会とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。